



会長	紺野 広	青少年奉仕	夏川戸 齊
副会長	橋本 昭一	幹事	松本 剛典
クラブ奉仕		会計	妻神 和憲
会長エレクト	橋本八右衛門	会場監督	佐々木泰宏
職業奉仕	道尻 誠助	直前会長	小林 幹夫
社会奉仕	岡崎 孝文	副幹事	小田山紀暢
国際奉仕	鶴飼 寿栄	会計補佐	小井田和哉

例会日	毎週水曜日 12:30	例会場	八戸グランドホテル
事務所	八戸市番町14		八戸グランドホテル内
	電話 (43) 0608	FAX	(43) 0661
	e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp		
	http://hachinohe-rotary.org/		
会報・広報委員長	峯 正一	同副委員長	上村 奉樹
同委員	妻神 和憲	同委員	野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ
世界に希望を生み出そう **和而不同 (わじふどう)**

国際ロータリー会長 ゴードン R.マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

4月は母子の健康月間です

第3309回例会 2024.4.10

会長要件 紺野 広 会長



今日は2点、御願いが御座います。

1点目ですが、本日、もう一人、新会員を迎える事と成りました。佐藤恒寛さん。明治安田の八戸支社長です。三菱系の企業で構成される菱友会の八戸の取り纏めを、青森三菱電機機器販売の夏川戸さんがなさって居られますので、スポンサーを御願ひ致しました。入会式宜しく御願ひ申し上げます。明治安田は、サッカーJリーグのタイトルパートナーです。ヴァンラーレ八戸にも関わって下さっています。日本赤十字社八戸赤十字病院もヴァンラーレ八戸の2024シーズンオフィシャルパートナーです。11月3日、カマタマーレ讃岐戦の際、プライフーズスタジアムに献血バスを出し、その日のマッチデーパーターナーの明治安田とイベントを共催致します。御時間の有る方は、応援がてら、献血にも御協力を御願ひ出来れば幸いです。佐藤さんには、私も既に2度程御会ひ致しましたが、地域だけで無く、八戸ロータリークラブにも、色々

な事を齎して下さる方だと感じて居ります。皆様、何卒御指導の程を、宜しく御願ひ申し上げます。

其れから2点目ですが、皆様御存知の通り、先週4月3日、台湾東部に於いて大地震が発生致しました。被災された皆様には心より、御見舞いを申し上げます。又、犠牲に成られた方々に、謹んで哀悼の意を表します。私達は13年前に東日本大震災を経験して居ますが、其の際、基隆扶輪社：1,656,000円、台中中洲扶輪社：3,433,178円と、台湾から多額の支援金を頂戴致しました。其の迅速で、温かな思い遣りの有る支援から、我々は、震災復興に向けての勇気を戴きました。そして、其の御金自体は、八戸市を通じ、名勝種差海岸の復興整備に使われました。台湾は、1999年9月21日、2415人が亡くなった、俗に「921地震」と呼ばれる大地震を経験して居ます。台中市も其の時に甚大な被害を受けて居ます。恐らく、東日本大震災時には、基隆扶輪社が、そう言う被災経験の有る台中中洲扶輪社に御声掛けし、支援金を募り、我々宛に送って呉れたのでは、と思っ

て居ます。そして、今回の台湾東部沖地震

で、甚大な被害を被った花蓮市の、花蓮扶輪社は、基隆扶輪社の子クラブです。花蓮扶輪社は、我々クラブの甥、姪に当たる関係とも言えるかと思えます。幸い、基隆扶輪社社員、家族自体には、被害は有りませんでした、スポンサークラブで有る基隆扶輪社は、花蓮扶輪社の支援に動く筈です。今度は私達が、基隆扶輪社を通じ、台湾の被災者を支援する番だと思えます。支援金は、任意ですので、飽く迄も、目安では有りますが、一口5,000円の支援金を、出来るだけ多くの会員から賜りたいと考えて居ります。会員の皆様の御協力に因り、基隆扶輪社、そして、被災地の方々に、日本人の気持ちを届けたいと考えて居ります。何卒、御協力の程、宜しく御願ひ申し上げます。

新会員紹介

夏川戸 斉様



本日、当クラブへご入会下さいました明治安田生命相互保険会社八戸支社支社長 佐藤恒寛様のご紹介をさせていただきます。明治安田生命さ

んは八戸三菱会に所属しており支社長になれる方は皆さん紳士です。

1998年4月 群馬支社 事務
2000年4月 財務部 融資サービス課
2004年4月 千葉支社 営業指導担当
2004年10月 山形支社 置賜営業所長
2009年4月 人事部 (派遣 愛知県)
2011年4月 営業企画部 業務調査G
2014年10月 調査部 調査G
2017年12月 大分支社 業務教育部長
2020年4月 商品開発部 商品開発グループマネジャー

と歴任され2024年4月八戸支社支社長にご就任されました。

当クラブへの入会を心より歓迎申し上げます。

新会挨拶

佐藤恒寛様

ただいま、ご紹介いただきました、明治安田生命の佐藤でございます。



昭和30年創立の歴史と伝統、格式のある八戸ロータリークラブに入会させていただき大変光栄だと感じるとともに、身の引き締まる思いでございます。何とぞよろしく御願ひ申し上げます。

出身は岩手県盛岡市で、群馬県の高崎経済大学を卒業し当社に入社いたしました。八戸支社赴任の前は、東京、大分、名古屋、山形と転勤してまいりましたが、各地で岩手県盛岡市出身という、顔が南国系だからなのか、少し皆さま怪訝な顔をされることもあり、東京勤務の際には、上野駅でバングラデシュの方に現地語で話しかけたような経験もございます。

話は逸れましたが、地元の皆さまのお役に立てるよう精いっぱい努力してまいりますので、何とぞご指導のほどよろしく御願ひ申し上げます

幹事報告 松本 剛典 幹事



- 緑の募金について
- お花見例会について

委員会報告

親睦・会場委員会

栗谷川敏彦委員



- ニコニコボックスの報告
- ・誕生祝 熊谷清一さん
- ・奥様誕生祝 山村和芳・佐藤恒寛さん
- ・結婚記念日 山村和芳・佐藤恒寛さん

橋本八右衛門さん

明日の次年度準備理事役員会よろしく御願ひ申し上げます。

夏川戸 斉さん

佐藤さん、ようこそ八戸ロータリーへ。

渡辺 孝さん 竹石さん災害卓話、加藤さん
新会員卓話よろしくお願いします。

小田山紀暢さん 加藤さん新会員卓話よろし
くお願いします！

栗谷川敏彦さん ニコニコデー

米山委員長



山村和芳さん

地区米山奨学委員会から寄
付のお願いです。

築館ガバナ一年度も後半に
入りました。米山記念奨学委
員会では皆様の寄付のお蔭で

3月2日、7名の修了生を送り出すことが出
来ました。関西方面で働く方、大学で研究を
続ける方、母国で仕事をする方とそれぞれが
米山の絆を大切にして活躍の場へと巣立ちま
した。また4月6日には新米山奨学生を7名
迎えることとなります。

弘前大学1名、青森中央学院大学4名、青
森大学1名、北里大学1名の優秀な留学生の
皆さんです。継続奨学生は弘前大学、北里大
学、八戸学院大学、青森中央学院大学に各1
名となっております。

次年度も奨学生の人数を増やして委員会活
動を継続していきたいと思えます。2月現在、
地区の個人寄付額（普通寄付プラス特別寄
付）が6,899円となっております。地区目標
は普通寄付3,000円以上、特別寄付20,000円
以上を目指しておりますが、特別寄付が頂け
ていない厳しい状況にあります。次年度の奨
学生の人数は5月までの寄付額で決まります。
会員の皆様のあたたかいご支援ご寄付をよ
ろしくお願いいたします。

ロータリーの友委員会

松林拓司委員長



松林です。前任の荒谷が委
員長を務めていまして、後任
として昨年11月に八戸支社に
着任しました。これまでは
早々ということで小田山さん

にやっていただいていたが、多少慣れ
たということで新年度から担当させていた

だくことになりました。よろしくお願
いします。

4月号から5点ほど要点を紹介し
ます。

まずは国際ロータリー会長のメッセ
ージからです。中東、ウクライナ、ス
ーダンと中央アフリカの一部などほ
ぼ全ての大陸で大規模な武力紛争が
発生している現状を憂い、平和を築
く行動を互いに実践できるかどうか
は、自分たち次第だと呼びかけ、対
立を悪化せずに関わらせるため
には、誠意を疑わないことが大切だ
としています。その一例として、キ
ング牧師が1968年4月4日に暗殺
された時のロバート・F・ケネディ
上院議員が行った演説を紹介してい
ます。遊説中だったケネディ議員
は、インディアナポリスでキング
牧師が殺害されたことを知ります。
彼は集まったアフリカ系アメリカ
人を中心とした住民にその悲報を
伝え、正義と平和のために尽力し
たキング牧師を讃えました。そし
て、次の言葉が怒り悲しむ群衆の
心をつかみました。「このような正
義にもとる行為に、あらゆる白人
に対して憎しみと不信感が募り
そうだという黒人の方には、私も
同じ気持ちだ、としか言えません。
私も兄の暗殺を経験していますか
ら」。ジョン・F・ケネディ元大
統領の暗殺事件について彼が公の
場で話したのは、この時が初めて
でした。その夜、アメリカ中の都
市で暴力事件が多発しましたが、
インディアナポリスでは起こり
ませんでした。世界に希望を生み
出すために、勇敢に、そして謙
虚に最初の一步を踏み出すには、
共感の心を持たなくてはならな
い、としています。

二つ目は、4月号は環境月間とい
うことで特集を組んでいます。世
界はバランスの上に保たれてお
り、動植物を守っていくことは、
環境を守り、人を守ることに
つながる、という趣旨です。事
例としてライチョウ、オミナ
エシ、カブトガニ、地域の川
での取り組みが紹介されていま
すが、もう一つ、漆について2
ページで紹介しています。仙
台奥羽RCの取り組みですが、
国産漆の約7割が、お隣岩手
県の二戸市浄法寺で生

産されているのは御存じの通りですが、仙台奥羽RCにとっても隣県ということで漆文化を守りたいと2020年に260本の漆の苗木を植樹したそうです。植樹はイベント的にやれば参加者も集まりやすいのですが大変なのは下草狩りなどの管理です。年10回の草刈りをし、廃材を活用した木材チップを苗木の周りにまきました。木材チップが雑草の生育を抑え、同時にチップが朽ちて栄養になることを狙った取り組みです。今後管理を続けるために協力体制を構築していくことの大切だとしています。

3つ目は能登半島地震関連です。茨城から能登への支援ですが、それは同期ガバナーの縁で実現したという内容です。地区補助金臨時費の申請、地区内会員に寄付のお願い、食品製造・販売業を営む会員から食料を調達、水戸市から災害支援車両の高速道路通行許可を得る、といった手続きを急ピッチで進め、必要な物資がものすごい速さで被災地に届いたそうです。受け取ったロータリークラブの代表は、それを「ロータリーのマジック」と表現するほどの有難い支援だったようです。

4つ目はSDGsについてです。17の目標がありますが、その先に169のターゲットと呼ばれる詳細目標が付いています。そして17の目標は、ロータリーの重点目標と多く重なっているといえます。平和構築と紛争予防は16「平和と公正をすべての人に」、疾病予防と治療は3「すべての人に健康と福祉を」、水と衛生は6「安全な水とトイレを世界中に」、母子の健康も3に該当、基本的教育と識字率向上は4「質の高い教育をみんなに」などといった具合です。目標実現のために3R、リデュース（ごみ減量）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）を進めて行く。加えてリカバー（自然の再生）とリターン（自然に返す）を加えて循環型経済の重要性を訴えています。その先進地としてスウェーデンの取り組みを紹介していて、一つは「私たちはレッドリスト（絶滅の恐れのある種のリスト）の魚介類は販売しません」と

銘打って人気を得ているお寿司屋さん、またジーンズメーカーは全てオーガニックの素材、かつフェアトレードの素材を積極的に使い、しかも無料で修理し、永久保証するというビジネス。またハンバーガーチェーン店は、一つ一つにCO2の排出量のラベルが貼られていて、グリーンメニューといって全て植物ベースの肉によるメニューも提供しているそうです。これを紹介しているエクベリ聡子さんの会社は、バナナペーパーにも取り組んでいます。バナナは、高さが7、8メートルにもなるので木だと思われていますが、植物学的には草ということになっています。幹の部分は、柔らかい葉が重なり合った茎で、一度、実を収穫するとおしまい、伐採すると、また1年で大きく育ちます。バナナが食べられるほど、茎が伐採され、今まではそれが廃棄物になっていましたが、この会社では紙にする取り組みをしているということです。ザンビアでは、バナナペーパーの紙のもとになる繊維をつくる作業を行っていて写真でも紹介されています。

最後は、「この人を訪ねて」のコーナーで落語家の桂文珍師匠が紹介されています。本名は西田勤さん、2020年1月に75歳でロータリークラブに入ったそうです。面白いのはロータリアンに漢字をあてていて、老人の老、足を知るの足る、足ですね、そして、お蕎麦屋さんなんかの庵の字をあてて「ロータリアン 老足庵」、老いて足を知る庵、としています。師匠を紹介した人は「師匠もそれなりの年になったし、社会的な立場もあるし」と入会を勧めたとのことで、一方師匠は「僕にも落語界だけにといたら視野が狭くなるの思いがありました。僕の周りの人たちはいつの間にか年下ばかり。上の世代からもっと学びたい。ロータリーに入って自分の世界をさらに広げよう」ということで入会されたと言っています。このコーナーは非常に読みやすい文章になっているので興味のある方は一読してみてください。以上となります。



竹石 雄さん

2週連続の卓話となりますが、本日は災害関連卓話ということで、先週お話しましたとおり、会社では長らく火力発電の部門に従事しておりますことから、「東日本大震災における火力発電部門の対応について」と題し、お話させていただきます。

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。

当社の火力発電所は、当時8箇所ございましたが、太平洋側の4発電所が地震・津波により被災し停止しました。また、秋田県の2発電所は、送電系統の影響により停止してしまい、結果、稼働しているのは新潟地区の2発電所のみとなりました。発電能力は、1,087.0万kWから459.4万kWへと激減してしまいました。

停止した発電所を早期に復旧しなければならぬ状況で、まずは、能代火力・秋田火力は、速やかに点検を行い3日後に発電再開をしました。八戸火力は、津波により被災したものの、比較的軽微であったため、汚泥の回収作業等を昼夜問わず行い、5日後に発電再開をしました。

平行して、東新潟コンバインドサイクルの増出力を行いました。東新潟は、ガスタービンが多数設置されている大きな発電所で、3号系列で6台、4号系列で4台、計10台を有しています。ガスタービンは、入口燃焼温度が高いほど出力・効率が上昇します。以前から研究・検証を進めてきていたこともあり、これを機に、一気に実施へと移行し、50℃上昇させ、21万kWupを図りました。

これらにより、発電能力は768.4万kWへとアップしました。

地震発生後、管内の約460万户、約70%のお客さまが停電となりました。送電・配電系統の懸命な復旧や火力発電再開により、3日後には約80%、8日後には約94%のお客さま

に電気が戻りました。

しかしながら、需要の大きい夏・冬に向け電気を送りたい、がまだまだ電気が足りない、状況でした。

2011年夏の供給力確保に向け、東新潟港1号機を復活させました。震災前から、老朽化が進んでいた等の理由で長期計画停止としていました。手を付けず放置していたイメージです。震災直後から分解点検整備を進め、5月22日、35万kWが発電再開をしました。

更には、できることは何でもということ、これも東新潟になりますが、非常に小型の0.54万kW緊急電源、港3号を設置し8月28日に運転を開始しました。

これらにより、発電能力は804万kWまでアップしました。

続いては、2011年冬の供給力確保に向け、仙台地区火力の復旧です。

仙台地区の2つの発電所は、発電所にアクセスする道路が津波でやられてしまったので、まずは道路の補修から開始しました。被災機器の点検は2交代で行い、大事な機器についてはかなり地震で揺さぶられてしまいましたので、工場に搬出して点検保守を行っていただきました。新仙台35万kWがちょうど9か月後の2011年12月11日に、仙台火力44.6万kWが12月20日に発電を再開しました。

さらに中型緊急電源ということで、新潟火力に小さなガスタービン36.9万kWの6号機を設置し、2012年1月31日から運転を開始しています。

これで887万kWで回復しました。

そうなりますと、2012年夏に向けまして、まだ節電をお願いしていただきましたので申し訳ない。なるべく供給力を増すということでやっておりましたが、大型緊急電源設置を震災直後から始めており完成させました。こちらは東新潟5号で33.9万kW、夏前の2012年6月21日に運転を開始させました。6月21日に秋田5号33.3万kW、八戸に緊急電源として設

置したガスタービン27.4万kWを2012年7月2日運転開始して、2012年夏の供給に備えました。これで約1,000万Kw弱まで供給ができる状態です。

震災前の供給力へ戻すため、福島にある原町火力ですが、18mの津波にあい現場は非常に凄惨かつ壊滅的な状況だったと聞いています。どこから手を付ければいいのか、ゼロから建設したほうがましという状態だったそうです。一歩ずつ再建設を進めて行きました。石炭を船からかき揚げる設備が津波で倒壊してしまった状況の写真です。所員は、出来ない理由を考えるのではなく、どうしたらできるか知恵を絞ろうということで進めていったそうです。これは津波で流された車が建物内に残されてしまっている状況です。不屈と前進ということをもっとに邁進していったそうです。

1号100万kW、2号100kWがそれぞれ2012年12月3日、2013年1月28日に発電を再開して供給力が1,200万kW弱ということで震災前以上にはなりました。原子力が止まっていた状況でしたので、ここまでの供給力を確保する必要があったというところです。

震災当時、わたしは東新潟火力で勤務していました。発電所は被災しませんでした。運転継続できた当社最大の発電所として、止められないプレッシャーと緊張感の中で過ごしていた記憶があります。本日紹介した中ではコンバインドサイクルの増出力と緊急電源東新潟5号の設置に直接関わりました。後者の緊急電源設置については、各自がかける思いを宣言して取り組みを開始していきました。わたしは、ちなみに「本業で震災復興に貢献できるなんて、こんなすばらしいことはない。これまで培った建設ノウハウも活かし取り組んでいきます。」ということをやっていた次第です。

新 会 員 卓 話

加藤範尚さん

トーショーの加藤と申します。自己紹介を含めてお話を進めていきたいと思ひます。



わたしは1978年1月生まれの46才です。新入会員で皆さんにご挨拶をさせていただいた時にも少しお話しさせていただきましたが、高校を卒業してから当社の取引先メーカーに2年間勉強に行ってきました。その後S T E株式会社の兄弟会社の株式会社トーショーに入社しまして現在に至っています。現在はS T E株式会社にも籍を置いて活動をしています。

そんな中でわれわれの会社は、皆さんご存じの方もいらっしゃると思いますが、“什用品販売業”でくくらせていただいています。什用品販売業というと頭に思い浮かぶのは事務所で使われている筆記用具やパソコン、またコピー機、電話機ということで考えていただけるのかなと思いますが、実はわたしはうちの会社に入社してから、ずっと防衛省を担当していました。そこでは当然事務用品、事務機器に関わるものもやってきたのですが、およそ事務用品屋が携わるものなのかという恐れ方をするようなものもやってきました。なので、事務用品屋はそんなこともするのだなということを皆さんに少し知ってもらえればと思います。わたしがこれまで携わってきた全部が全部成功したわけではないので、お話をいただいたことも含めて、お話をさせていただきたいと思ひます。

会社に入社しましてから、むつに転勤しました。むつには海上自衛隊大湊地方総監部また航空自衛隊42警戒隊の2つの部隊があります。その中でも大湊海上自衛隊総監部に携わっている中で、お話をいただいたものをご紹介させていただきます。

まずは魚雷を格納する棚を作れ。どういうことかと聞きましたら、それまでは直置き、パレットみたいなものに置いていたそうです。ただ場所が限られているので、それを棚に乗せたい。われわれのメーカーの棚屋さんに電話をして、このような話がきているということを行いました。重量物品棚をご存じかも知れませんが、本来であれば棚は平らなものです。その平らなものに乗せるには無理がある

ので、ビームという柱と柱を結んで固定しているところに窪みをつけて、それを置けばいいのではないかとということをご提案しました。それだとどのくらい窪みをつけるかによって魚雷が落ちるのではということ、その案は不採用になりました。航空自衛隊にお邪魔したときに、航空自衛隊では魚雷ではなく飛行機から撃つ模擬弾を置いているのですが、それを格納している棚を見た時に、やはりわたしが言っていたことは合っていたのではと思いました。

また、監視するヘリコプターには司令官が乗る立派な椅子が1つだけ付いています。ただ立派な椅子といっても地上にある椅子ほど立派ではないので、部隊の上の方が気を使って、この椅子にシートを被せたい、ということで地上で実際にヘリコプターに乗って採寸して、それを生地屋さんに頼んで作っていただきました。1枚だと洗濯に出せない、2、3枚作った覚えがあります。

本業のコピー機の話ですが、コピー機は艦艇にもついています。また潜水艦の中にも入っています。そのコピー機は日本国内だけでメンテナンスをできればいいというのではなく、海外に行ったときにでもメンテナンスができるメーカーでなければならない、という明確な基準があります。細かい話ではありませんが、上り下りも厳しいくらい梯子はすごく急ですし、狭いです。その中で1台40～50kgもある機械を2人がかりで搬入しながら、やるということも経験してきました。

その後、三沢航空自衛隊を担当しますが、ここでも思いがけないような仕事を頼まれました。例えば軍用犬のエサ、軍用犬を訓練するためのおもちゃの手配。軍用犬にも階級があります。自衛隊に入隊すると一、二、三、師長と上がっていきますが、師長になれないとそこの隊員でお辞めになる方もいます。犬の上がったときから“曹”の扱いになるそうです。歴が長い、すごい優秀な犬と認められるそうで、エサもかなり立派なものを食べます。そこら辺にあるようなエサじゃないそうです。肉も混ぜる。それも取り寄せた覚えもあります。

本当に困ったのは、基地の中に必ず警備を

する部隊があり、門番で銃を持っている方々を思い浮かべてください。この方々は基本的には銃の管理を任されています。ある時、警備隊の隊長に呼ばれ、飛行機に乗って銃を持って海外に行かなければいけないので、その時に銃を入れるためのクッション材付のジュラルミンケースを作れないかという相談を受けました。話をいただいたものの、われわれ一般人が銃に触ってはいいいものでは当然ありませんし、保管しているところも本来なら立ち入りをしてはいけない嚴重なところ、

なので、銃の形もわからなければ、どのように運びたいのかもわからない。すごくありがたいお話だけれど、どうすればいいのか伺いました。似たようなエアガンを買って、型をつければいいんじゃないかと言われました。ただ似たようなものと言ってもどんなものかわからないので教えてくださいということで一度見せていただきました。そういう知識がないのでわかりません。そちらで型を作って、われわれにいただけませんか。それを基に作ることもできるかもしれませんと話をして、あなたを基地の外に出すわけにはいかない。そしたら何もできないじゃないですかとお断りした覚えもあります。その時はすごい数の銃を見せられました。

F35戦闘機が三沢に9機配備されました。日本とイギリスの共同開発の戦闘機です。制御ロールがないので、それも何とかして欲しいと言われました。日本にはさまざま工具を扱っているところがありますので、そういうものでは代用できないのですかとお話をさせていただきました。万が一ものを壊してしまつては困るので専用のを仕入れて欲しい。見せられたリストはすべて英語で、どこから取り寄せるものなのかもさっぱりわかりません。取り敢えず伝手を頼って、防衛省の上の方々とお付き合いがあるであろう運輸会社など、いろんなところにお話を聞きましたが、これは簡単に取り寄せられるものじゃない。申し訳ないですが、本部で全体的に整備されるでしょうから、一企業がやるべきものでは

ないので勘弁してくださいとお断りしました。

わたしは航空自衛隊を担当してから結構、たまにはやっていないこともあります。航空祭で配られている記念品を当社で作っていました。現在もたまにはやっています。震災前あたりまでは自衛隊さんではこういうものが欲しいかなというものを考えながら、金型から製作をしたりして、物を一から作ることをやっていました。中国まで行って金型に指示をしたこともあります。

コロナ前まではやっていたのですが、コロナになってからなくなったこととして観閲式が陸海空持ち回りで行われています。その後、陸上と航空の関節式は当然地上でやりますので、観閲式はyou tubeで見たことがあるかも知れませんが、そこには内閣総理大臣も含めて閣僚の方々、政治家の方々が多く参列されます。そこでわが社で何をするかというと、折り畳み椅子を出しています。折り畳み椅子はそこら辺にいくらでもあるじゃないかと思われるかも知れません。

実はそこに貸している折り畳み椅子はわたしの知る限り、メーカーとしては2メーカーしか出しておらず、現行で残っているのは1メーカー。どんなものかという、生地付、本革張りのすごく高級な椅子です。折り畳み椅子なのに1脚定価で28,500円です。それをだいたい600脚近く、八戸から現地に輸送し、現地で開封して配置して、返ってくるということをわたしのほうでやっています。少しでも傷があると、これは大臣の方々が座るからと言って交換させられます。夏も常にカビが生えていないか、傷がないかをしっかり確認しながらやっています。そういったことも当社でやっています。

今ご紹介した以外にも20年近く自衛隊を担当してきましたので、本当に言えないようなこともいっぱい見てきましたし、絶対入っちゃいけないだろう所にも散々入って来ました。機会があれば皆さんとそういったお話もできればと思います。

出席報告						出席委員会	
第3309回例会（4月10日）			第3307回例会（3月27日）				
出席率		60.3%	出席率		65.1%	修正出席率	68.3%
総会員数		63名	出席数		38名	総会員数	
					64名	メイクアップした人数	
出席義務会員		62名	出席免除会員		1名	欠席数	
					25名	20名	
出席義務会員		62名	出席免除会員		1名	欠席数	
					63名	20名	

—— 第3310回 お花見例会 2024.4.17 ——

クラブ恒例のお花見例会は4月17日午後6時30分から34名出席でグランドサンピア八戸において行われました。例会は小田山副幹事の司会で会長要件、幹事報告がありました。引き続きパーティでは増田親睦会場委員長の司会で橋本副会長の挨拶、乾杯の発声で懇親

が始まりました。アトラクションでは「the trinity voice」による昭和・平成のポップス歌謡メドレーがありました。

中締めは村井P Gの挨拶で終了となりました。



会 長 要 件 紺 野 広 会 長



今日は、メインテーブル以外に円卓が8卓で、出席人数が矢張り徐々に増えて来て居る様です。私が目標を立てて、会員の勧誘をして居るのは、演壇から見る景色が少し寂しかった、と言う事が、要因の一つで有ります。年度始めの頃は、大抵、円卓が5～6卓位で、其々のテーブルの席自体にも隙間や空席が目立って居り、もっと小さい会場の方が、収まりが良さそうだなと感じる例会も多々御座居ました。南グループの殆どのクラブのスポンサー、親クラブで有る八戸ロータリークラブとしては、物足り無いのではと言う気がして居りました。今は、皆様の御協力も有り、御陰様でクラブ会員数は67名迄増えました。只、10名位は例会に殆どいらっしやらない、自称不良会員の方々や事情が有って休会申請を出されて居る方々です。参加を見込める実人数から換算すると40人以上常時出席すると言うのは、高い出席率なのだと思います。本日御出席の皆様を始めとして、会員個々が其れなりに御自覚を持たれ、クラブ奉仕を念頭に行動して下さって居る御陰かと存じます。本日も例会御参加、誠に有難う御座います。

そして又、当クラブに新たな方が入会を御検討下さって居ります。正式には、理事・役員会の審査後に、クラブ会員全員へ周知し、異議申し立て期間を7日間設ける事と成りますが、八戸グランドホテルの長沼弘次代表取締役社長に道尻会員が御声掛けし、内諾を得、会員推薦書も既に提出されて居ります。そして2023-24年度途中での入会の方向で、話しが進んで居ります。かつて、八戸グランドホテルに事務局を置く2つのロータリークラブ、八戸ロータリークラブにはホテルの代表取締役社長の笹本進さんが、そして、八戸東ロータリークラブには当時総支配人だった長沼弘次さんが入会して居られました。笹本さ

んが御病気に因り急逝なされた後、新井山光さんが後を継いで当クラブに入会されましたが、家庭の事情でホテルを退職されてからは、八戸グランドホテルからの当クラブ入会者が居無い時代が今迄続いて居りました。八戸東ロータリークラブが事務所を八戸パークホテルに移し、長沼さんが八戸東ロータリークラブを退会され、少し間が空いた時に、道尻会員がタイミング良く、御話しして下さった御陰での今回の御縁です。御入会戴けた場合、クラブ会員数は68人に成ります。年度内会員70名の目標迄、後2名です。

4月12日発行の「ハイライト米山」に素敵な記事が有りましたので御紹介させて戴きます。『3月13日、東京浅草ロータリークラブ・東京上野ロータリークラブ・東京浅草中央ロータリークラブによる3クラブ合同例会が都内にて開催されました。合同例会は“米山学友の活躍”にスポットを当てたもので、二部構成で開催されました。第一部はアメリカ出身で、沖縄に住みながら「長寿」沖縄の食生活とライフスタイルを研究・発信するクリスタル・バーネットさん（2017-18/那覇南ロータリークラブ）の卓話が行われました。「長寿の秘訣は、食べるものではなく、食べ方にあります。楽しんで食事をする事。そして生きる目的を持ち、ソーシャルコネクションを持ち続けること」であり、それらすべてが「ロータリーライフに通ずるものがある」と語り、会場を沸かせました。』という記事でした。

私にとって此の八戸ロータリークラブは緩い部活の様な物で、時に厳格に指導して下さる先輩や優しい先輩が居らっしやいますし、生意気な後輩も居れば可愛い後輩も居ます。非常に居心地が良い所です。此の中でソーシャルコネクトを持ちながら、ロータリーライフを満喫して行きたいと考えて居ます。長沼さんが其の仲間に入り、楽しいロータリーライフを皆さんと送って下さる事を祈念して居ります。

そして、八戸ロータリークラブを退会された方々も、私にとっては部活のOBの様な存在です。OB、種市襄先生から先日メールを戴きました。「昨日、娘の運転で枝垂れ桜を観てきました。八戸ロータリークラブの2001年地区大会の時の植樹で、『身延の桜』と銘打って、庭園の一番奥の本丸前の目立つ処に有ります。」これは根城城址、史跡に有る桜の話です。「裏にロータリークラブ記念植樹と書いて有ります。今、当クラブに所属していらっしゃる吉田誠夫さんの御父さんの故吉田昌平さんが地区大会委実行員長で、私が大会幹事で、良きに計らえと、仕切らせて戴いた時の物です。身延の人家の庭に在りました木を、会員の小泉忠男さんが取得してきたものです。25年経って良き枝振りで、趣があり綺麗です。会長挨拶のネタに。」と言う事でメールを送って来て下さいました。山梨の身延山久遠寺は根城南部氏の祖の南部実長公、日蓮上人の縁の地です。今年の桜は見頃を過ぎましたが、来年にでも、古い先人に思いを馳せて、当ロータリーが関与し成長した『身延の桜』を、機会が有りましたら皆様と観て、楽しめればと考えて居ます。クリスタル・バーネットさんの言うソーシャルコネクションを持ち続ける、楽しいロータリーライフは身近に有りました。

幹事報告 松本 剛典 幹事



- 5/10(金)クラブ協議会
出欠締切4/26(金)
- 5/18(土)地区研修・協議会
(DTA) 出欠締切4/24(水)
- 4/26(金) 事務局は午前中

お休み。事務局は毎週木曜日がお休みですので、お間違いがえないようお願いいたします。
○水曜会の皆様

能代ロータリーとの合同ゴルフコンペのご案内です。締切は5月7日ですので、お返事は事務局へよろしく申し上げます。

小田山紀暢次年度幹事



- ①お花見例会のときにもご案内をしましたが、5月10日(金)クラブ協議会があります。これは次年度の各委員長の皆さん、理事役員の皆さん

が対象になっています。出欠がまだの方はお返事をお願いします。

- ②5月18日(土)地区研修協議会(DTA)があります。こちらも出欠の締切は本日ですので、出欠のお返事をお願いします。
- ③本日レターボックスに次年度理事役員と各委員会名簿を入れさせていただきました。本来は橋本会長エレクトよりご説明していただく予定でしたが、本日ご欠席ですので、改めて橋本エレクトからご説明があるとは思いますが、ご自身がどちらの委員会に所属されているのかをご覧いただきたいと思ひます。

委員会報告

親睦・会場委員会 栗谷川敏彦委員



- ニコニコボックスの報告
- ・誕生祝 峯 正一
鴨澤 諭さん
- ・奥様誕生祝 深澤 隆
竹石 雄・小井田和哉

小林幹夫・増田 敏さん

- ・結婚記念日 深澤 隆さん
- 小田山紀暢 } 堤さん、上村さん新会員卓話
- 渡辺 孝さん } 楽しみにしています。
- 地代所久恭・熊谷清一 } ニコニコデー
- 道尻誠助・上村奉樹さん }

青少年奉仕委員会担当例会 夏川戸斉委員長



きょう皆さんのレターボックスの中にRYLAのちらしが入っていると思います。青少年奉仕委員長の関係からちょっとご紹介させていただきます。

お手元の資料をみてお分りの通り、6月

8日～9日、原燃テクノロジーセンターにおいてRYLAが開催されます。今回の講師はわがクラブの会長の紺野広さんと翌日はガバナーの築館智大さんが講師の予定でございます。ちらしにも書いてあります通り、対象は18才～30才までとなっておりますので、今回はわがクラブから会長とガバナーが講師として参加しますので、ぜひ皆さんの会社の従業員であるとか一員であるなど、そういう方をぜひ誘っていただいて、わがクラブを盛り上げていただきたいと思いますので、ぜひともご協力のほうよろしくお願いいたします。

松本幹事：水曜会ゴルフコンペの報告をさせていただきます。4月20日(土)に今年第1回目の水曜会がありました。この日は風は強かったのですが天気にも恵まれ、新しく初めて参加していただいた方もいらっしゃり、この日は18名の参加がありました。6組で回りました。その後懇親会もありました。成績は優勝は橋本昭一さん、準優勝は渡辺孝さん。その後の懇親会もひじょうに盛り上がりました。人数が多いとたいへん楽しい水曜会だったと思います。例会ではなかなか接点がない方も触れ合う良い機会だと思いますので、皆さんもぜひ参加いただきたいと思います。

青少年交換委員会 夏川戸斉委員長

青少年交換についてご紹介したいと思います。

青少年交換とは：異文化を理解し、国境を超えた友情と信頼をもたらすことで、世界の平和を少しずつ実現できるとわたしたちは信じています。これは国際ロータリーの青少年の中からの抜粋です。

ロータリーの青少年交換でできること：青少年交換でいろいろな可能性が広がります。要は青少年のリーダーシップを養うということの目的です。自分で率先して行動する力を育てる。海外の若者と交流し、友達をつくる。グローバルな市民になることを目的としています。

交換の期間、資格：15才～19才までの学生が

対象となります。交換には長期と短期があります。長期については1年間、短期については数日から数か月。これは主に夏休みであるとか冬休みであるとか、そういうものが交換の期間になります。2830地区においては長期交換（1年）だけとなっております。

参加する費用：航空券、ビザに関わる費用、おこづかいといったものがかかります。地区においては半年に1回おこづかいを数万円渡すところもあるようです。

交換の原則：交換ということなので、例えば八戸ロータリークラブとアメリカの〇〇ロータリークラブには交換が決まりますとお互いに受け入れをする、お互いに送り出しをする。同じロータリークラブ内で交換をするというのが原則になっています。ただ事情によってやむを得ない場合は片方が違うということもあります。現在青森県2830地区ではこのようになっていない交換留学生がいます。

交換する学生の資格：平均以上の学業成績。母国語における明確かつ効果的な自己表現力、指導力を発揮した経験、こういったものが条件になります。

検討事項：受け入れ国の言語に堪能なこと、または言語を学ぶ意欲。受け入れ国の人々に母国の見方や文化を伝える熱意。いろいろなイベントに参加しながら、例えば日本の風習や文化を伝えていただきたい。

受け入れるためには：ホストファミリーが必要となります。ホストファミリーも資格や審査がありますが、一般的に三世帯が望ましいとされています。三世帯ですから、4カ月ずつ三世帯にわたって面倒をみていただくということになります。ホストファミリーは責任感が強く海外の若者を受け入れることに興味と意欲がある家庭が望ましいとされています。ホストファミリーにおいても審査があります。

国際ルール：交換する学生の禁止事項を規定しています。主に運転、自動車、オートバイ、船舶などはNO Driving。アルコール飲料および喫煙禁止。NO Drink。シングルデートの禁止NO Dating、麻薬・覚せい剤の禁止NO Drug この4つを規制していて、全部

頭にDがつくので4 Dルールとなっています。これに違反をした場合は即刻帰国させるということになります。特に若い学生ですので、上から3番目のシングルデートの禁止はひじょうに危ないかなと思っています。

カウンセラーの選任：ホストクラブの中からカウンセラーを選びます。そのカウンセラーは学生と常にコンタクトを取りながら、いろんな病気、ハラスメント、心身のいろんな相談に乗ることがカウンセラーの役割となります。

交換留学生を受け入れるには：危機管理委員会が地区の中に設けられます。例えばこの間の能登半島地震であるとか、さまざまな自然災害であったり、身体的や性的なハラスメント等々、そういったものに対応して、先ほど

のカウンセラーから申告があった場合にこの危機管理委員会で判定をしてどうするかを決定することになります。

帰国：無事に交換が終わった場合は帰国になります。ロータリー年度と同じではなく7月下旬頃が目安となります。手続きは全部学生がやりますが、荷物がだいたい増えるそうなので、ホストファミリーと相談しながら荷物の発送等々をすることで、無事に帰国することになります。

八戸ロータリークラブではしばらく青少年交換をしておりません。希望者を募ってもなかなか出てこないというところもあります。今後はこういったものも検討していただければと思います。



新 会 員 卓 話



堤 幸治さん

本日は自己紹介させていただき、その後は日本の電気の始まり、青森県の電気の始まり、八戸市の電気の始まり、東北電力誕生ということで、皆さんに東北電力を身近に感じていただきたいという思いで、話をさせていただきたいと思います。

名前は堤幸治つみこうじです。生年月日は1963年（昭和38年）7月1日生まれ、現在60才でございます。男4人兄弟の次男坊です。出身地は青森市大字久栗坂字浜田。平内町との境が浅虫温泉で、その浅虫温泉の隣町です。両親の職業はホタテ養殖業です。実はホタテ養殖業を継ぐか継がないかで一度親と話しをしたことがあります。漁師はバクチだということで親から拒否されて、今、東北電力に務めておりますので、よろしくお願ひします。

自宅は八戸市売市です。昨年7月に単身赴任解消、自宅通勤したのですが、3月1日からまた青森に転勤になりまして社宅生活が再開されております。本日も青森から参って

ますので、引き続きよろしくお願ひします。家族構成は妻、仙台に単身赴任中。娘二人はもう嫁いでおりますので誰もいない。八戸市の自宅も3月1日から2回しか泊っていません。

職歴は昭和57年4月1日に東北電力三沢営業所に入社させていただいて、主に青森県内で勤務させていただきました。他県勤務は福島県郡山営業所、宮城県本店総務局。出向経験も一度あり、日本原燃の青森事業所に一度だけ出向したことがあります。令和5年昨年6月30日満60才で定年退職しまして、7月1日に再雇用。今現在再雇用組で八戸営業所をやらせていただいておりますので、よろしくお願ひします。

ここから電気のお話です。まずは日本の電気の始まりですが、皆さん電気記念日を聞いたことがあるかと思いますが、実は今から146年前の1878年（明治11年）3月25日に東京虎ノ門工部大学校（現在東大工学部）のホールにアーク燈が設置され、点灯されたのが始まりです。ただ当時は蓄電池（バッテリー）を使ったのであまり長い時間は点灯で

きなかったということ。その式典に出た方たちが見ただけで、たくさんの方が見たわけではなかったので、実は多くの人々が電灯というものを初めて見たのはそれから4年後です。東京銀座の街路にアーク灯が設置されたのが初めて、というふうなことになるようです。

3月25日電気記念日というマークを付けましたが、これは手のひらで光を囲む形、電球の形の両方をイメージしたものです。こうやってまずは日本の電気の始まりがありまして、全国各地に電力会社が誕生していきました。

青森県の電気の始まりについて：明治30年1月24日青森市、青森電灯株式会社の設立に始まります。日本で初めて電灯が灯ってから19年、東北本線の全線開通から5年後のことです。東北では仙台、福島に次いで3番目です。青森に電気が点いてから、その4年後の明治34年6月10日弘前に電気が灯りました。

青森県内で電気が点き始めた頃、実は住民の間で電灯の下にいるとエレキの影響で頭が禿げる、電気をつけると変な臭いがして頭が痛くなる、夜も寝られないというような噂がまことしやかに流布されたという記録が残っています。また当時は停電も多く、一般家庭の電気の普及はかなり遅れたという記録が残っていることです。

八戸の電気の始まりです：皆さまご存じかと思いますが、八戸の電気の始まりにつきましては、当時の河内屋6代目橋本八右衛門さんが八戸水力電気を興したことに始まります。新井田川を利用する是川白蛇久保に是川水力発電所を建設して、青森電灯より14年遅れた明治44年に開業となりました。実は水力発電は建設コストが火力より割高ですが、ランニングコストがかなり安いということで、実は是川水力電は10燭光55銭（1燭光は蠟燭1本の明るさ）という低料金。弘前電灯は10燭光1円55銭で、3倍の料金だった。これが水力にすると1/3でやれたということで八戸水力もどんどんお客様を増やしながらかの島守発電所建設へと進んでいくということです。

東北電力誕生までをざっくりとした年表でお示しします。八戸小学校、白銀小学校は学

校のHPなどで今からだいたい150年前に開校したようです。電気が灯るのはその後ですので、電気がない中で勉強していたということになるかと思います。

明治11年になりますと日本で電気が始めて、そして仙台、青森、弘前とだんだん電気が点き始めます。八戸の電気は明治44年です。その後、大正元年から昭和5年頃まで青森県内で各電力会社が、記録に残っているところを見ると実は25社くらいが県内に設立されています。

その同時期、昭和4年5月1日に八戸町が市制施行で八戸市になっています。この八戸市が誕生する少し前、昭和2、3年頃、実は電気料金を引き下げろという電灯争議が起っていて、青森県内でも電気料金値下げ運動が広まっています。風が吹けば電気は止まる、さらに当時メーターが付いていなかったのも、使っても使わなくても電気料金は一緒という時代だったようで、やはりそういうことに対する不平不満が強かったということで、一気に電気を民間じゃなくて公営でやるべきだというふうな公営論が高まって来ました。

この電気の公営論の中で、当時の青森県経済はかなり不況下にあったということでしたが、青森電灯、弘前電灯、八戸水力電気の各電力会社を買収するということが、青森県が巨額の投資をしたということです。そして不況の緩和、県財政の恒久的財源確保、こういうことを目的に青森県営電気局が開業しました。これが昭和9年4月1日のことです。県営電気局の開業前に当時の青森市長が市営にしたらいんじゃないかと頑張ったようですが、やはり県には負けてしまったようで、市営にはならなかったという記録が残っています。県が買収した3社の電気金額は当時の金額で1,758万円です。今だとどれくらいかわかりませんが、かなりの巨額の投資だったと聞いています。

昭和に入ってから東北地方はかなりの不況、大恐慌、冷害などに襲われます。電力需要も東北の電気事業者は経営体質がぜい弱だということで経営が悪化しているということで、東

北経済の救済を国家プロジェクトとしてやらないといけないということで、昭和11年10月に東北振興電力というものが設立されています。

その後、東北振興電力が発足してから、政府は電力の再編成という名目で、日本発送電株式会社を作っています。この日本発送電株式会社というのは日本で存在するすべての電力施設を国家が接收、取り上げ管理するために日本発送電という会社を作っている。これは昭和14年4月1日のことです。日本発送電の設立によって発電事業、送電事業については概ね統合されたのですが、県営電気局が行っていた皆様のご家庭に電気を届けるという配電事業の部分だけが取り残されて、これも統合すべきという議論になってきました。昭和17年4月1日、政府の命令により東北配電株式会社設立になります。この時に東北配電の配電区域として東北6県に新潟県をプラスした7年を供給エリアとしなさいという命令が出ています。

そして昭和26年になって、政府がまた電気事業の再編成を行った。昭和26年5月1日、全国の発送電設備を握っていた日本発送電を解体、発電から配電に至るまで一貫して運営する民間会社を9電力会社に再編成したということです。今まで東北配電の事業も東北電力に継承され、26年5月1日に東北電力が誕生しました。

イメージはこんな感じです。八戸水力電気から東北電力への流れ、国が管理した東北振興電力から日本発送電になり、それを解体して東北電力になったというこの2本の流れで東北電力が誕生しています。こういうことをぜひ覚えておいていただければと思います。足かけ13年にわたる電力の国家管理が終わりを告げて、東北電力が誕生したことになります。東北電力は今年の5月1日で創立73年になります。引き続き、より、そう、ちからのグループスローガンのもと、地域の発展に貢献して参りたいと考えております。

上村奉樹さん

わたしは八戸クラブに入会させていただ

て、だいたい10カ月が過ぎました。まだまだ知らないことばかりですので、これからも引き続きいろいろ教えていただきたいと思っています。

わたしからはデーリー東北の創刊時の話をさせていただきたいと思います。雰囲気だけでも見ていただければと思います。わたしもプリントアウトして読んでみたのですが、読めない旧字があったり、文章がすごく固くてよく理解できないようなものがありました。第二次世界大戦中に全国的に言論統制と新聞用紙の規制があって、一都道府県に一紙だけに制限されることになりました。当時青森県にあった新聞は八戸新聞、青森日報、弘前新聞、東北タイムスの4紙があって、東奥日報さんに吸収されました。八戸地方にあった奥南新報社だけは廃刊の道を選んだという記録が残っています。

戦後、青森県南にも新聞が必要だということで、当時の有志が集まって、後の幹部になる方々ですが、まず必要なのは当然ですが新聞用紙。新聞用紙の確保と新聞の印刷ができるところが当面の課題になっていました。用紙の確保は新聞用紙の配給、割り当てが当時GHQ連合軍総司令部の意向に左右されていて、印象を良くするという意味で半分を英語、半分を日本語で、さらには進駐軍キャンプにも配布する計画としました。新聞名を「デーリー」としていたのもそのためです。交渉の中で結局は英字新聞は必要がないということで幻になったのですが、新聞用紙の確保は叶いました。

印刷所も何度も何度も交渉を重ねて、当時の中央印刷さんというところから承諾を得て、印刷ができるようになりました。中央印刷さんの近所にあった、先程お話しした旧奥南新報社さんの建物を譲り受けて本社としました。広告も青森銀行さんなど金融団に広告を出してもらっています。浅虫温泉のホテルから広告が出たりしています。料金は調べられなかったのですが、そこから始まっています。4ページ目を見れば、たぶん破けたのでしょう、セロハンテープでくっつけて画像で残っ

ている新聞になります。

1945年（昭和20年）12月15日に第1号、先程の新聞が発行になって、当初は毎日ではなく月10回程度の発行で、購読料は当時1か月2円50銭だったそうです。1部売りは10銭。ちなみに現在は月3,300円、1部130円となっています。創刊号は先ほどの映像ですが、タブロイド判、今の新聞の半分の大きさで発行していて、第2号からは通常のサイズになりました。共同通信社と受信契約を結んだ翌年3月末からは待望の日刊に切り替えて、名実ともに「デーリー」となりました。購読料もこのタイミングで倍の2円50銭から5円に値上げしています。発行部数は昭和30年1月からのものになりますが10,870部。その後100,000部を超えた時期もありましたが、現在は87,000部ほどとなっています。

当時からしばらくはデーリー東北といっても知名度がなく、クリーニング屋さんや薬屋さん、お菓子屋さん、化粧品屋さんの会社に間違われていたそうです。そういうこともあって、1971年、わたしが生まれた年ですが、デーリー東北新聞社に社名変更して本社の所在は番町3番地にあったそうです。歴代社長は15人で生え抜きは今の広瀬知明社長を含めて5人連続となっています。奥南新報社の会社を譲り受けた時の廃屋で商売を始めた記録が残っています。さすがにネズミが走り回っていたという記録がありますが、これだとちょっとあまりだということで、翌年にリフォームしました。題字の変遷は題字は昭和22年くらいに使っていた題字に先祖返りしているのかという、変遷をしています。

自己紹介をします。わたしは1971年5月12日(水)に岩手県軽米町出身です。B型です。軽米幼、小、中、高卒です。父親は当然軽米町で、母親は八戸市是川出身です。いわゆる岩手と青森のハーフです。小さい頃、南部バスに乗って、わたしは体が弱かったので八戸の小児科に母と一緒に1時間くらいバスで通っていました。今の上組町の辺りだったような記憶がありますが、よく来ていました。わたしがぐずるものですから、いつもどこかのデ

パートに寄ってミニカーを買ってもらって。パーラーながさきでナポリタンやクリームソーダを食べて帰ってくるというルーティーンがありました。

うちは両親が早く亡くなっているのが実家は今はないのですが、わたし自身は八戸に住んで30年くらいになります。少子化が叫ばれている中、肩身が狭いのですが、絶賛独身中です。趣味も特にないのですが、ゴルフ、酒飲み、戦国時代も好きです。高校球児だったので野球も好きです。オヤジが好きなもの全部という感じになっています。そんなわたしです。

最後になりますが、デーリー東北新聞社は来年80周年を迎えます。将来はたぶんいろんな商売をしながら新聞“も”作っている会社になっているのではとわたしは勝手に思っています。新聞離れや人口減も相まって、発行部数の減少は避けられませんが、地元に必要な新聞、未来永劫皆さんに読んでもらえる愛される新聞を作っていきたいと思っています。

会長講評：紺野 広会長

ゴルフや御花見例会の報告を伺うと、とても楽しく行われた様ですが、私は所用が有り何方も出席出来ませんでした。楽しい話を聞く矢張り少しジェラシーが湧いて参ります。今度何かイベント有ったら是非参加して皆様と楽しい時間を過ごしたいと思ひます。

其れから、ゲストの御話しよりも、仲間内の其々頑張つて来られた方の御話しは良く心に響きますし、内容も素晴らしく楽しい新会員卓話でした。卓話を頂戴した堤さんも上村さんも既に馴染んで下さつて居られまして、会員の勧誘にも積極的に関わつて戴き、又勧誘自体に来て戴いて居ります。本当に有難う御座居ます。出来れば質問の時間も取りたかつたのですが、私がスケジュールを詰め込み過ぎた為、時間がタイトと成り、中々質問の時間が取れません。御話しも聞きたいし、質問を御受けしたいし、と言うジレンマが有りますが、何方も有意義な事ですので、適宜副幹事の差配でやつて参りたいと思ひます。

出席報告					出席委員会			
第3310回例会（4月17日）			第3308回例会（4月3日）					
出席率		100%	出席率		61.9%	修正出席率	63.5%	
総会員数		64名	出席数		64名	メイクアップした人数		1名
出席義務会員名	出席免除会員名	欠席数	名	出席義務会員	出席免除会員	欠席数		23名
				63名	1名			

出席報告					出席委員会			
第3311回例会（4月24日）			第3309回例会（4月10日）					
出席率		60.9%	出席率		60.3%	修正出席率	61.9%	
総会員数		65名	出席数		39名	メイクアップした人数		1名
出席義務会員	出席免除会員	欠席数	名	出席義務会員	出席免除会員	欠席数		24名
64名	1名	25名		62名	2名			